

# 平成 27 年度 第 1・2・3 回 合同番組審議会 議事録

## 1 開催年月日

平成 27 年 8 月 25 日 (火) 午後 3 時～午後 4 時 30 分ごろ

## 2 開催場所

砺波市太郎丸 2-129 北日本新聞社砺波支社 会議室

## 3 委員の出席

委員総数 5 名

出席委員数 5 名

出席委員の氏名 (◎委員長)

- ◎ 飯田 敏雄 (85 歳、男、前砺波市文化協会会長)
- 西森 昭治 (41 歳、男、砺波商工会議所青年部直前会長)
- 石村 修子 (36 歳、女、千華園勤務、グリーンアドバイザー)
- 小幡 豊 (65 歳、男、砺波市文化会館館長)
- 河合 要子 (48 歳、女、KO・RA・RE 代表)

放送事業者側出席者名

- 河合 常晴 (株式会社エフエムとなみ 代表取締役社長)
- 青山 智則 (株式会社エフエムとなみ 業務部長)
- 古井 裕人 (株式会社エフエムとなみ 編成部長)

## 4 協議事項

1. 各委員のご紹介
2. 番組審議会の概要説明
3. 副委員長の選任
4. 10 月改編に対するご意見
5. 放送番組に対する評価

《対象番組》

- ・ ベーグルズ&グリーンティアー
- ・ W. C. カラスの駄々漏れブルーズアワー
- ・ 垣田堂のカキタイムズ

社名	株式会社エフエムとなみ
----	-------------

## 5 議事の概要

最初に、先月お亡くなりになられた奥野達夫前副委員長のご冥福を祈り、黙とうを捧げた。

社長、委員長の挨拶に続いて新任委員の皆さんの紹介をさせていただいた。

小幡委員を副委員長に選任いただいた後、編成部長の古井より今年度の番組編成方針を説明、その後10月改編に対するご意見、合わせて、今年度の始まった3つの新番組に対する意見、感想を求めた。

また、FMとなみをより多くの市民に聴いていただくための多面的な意見を頂戴した。

## 6 審議内容（各委員の発言を要約して箇条書きで記載）

〈編成についてのご意見、及び番組に対する合わせて〉

### 【西森委員】

- ・ゲイブさんは外国の方が聴きやすいし、親しみやすい
- ・日・米の違い、疑問・質問のやり取りが面白い
- ・編成について、県内で有名な「内田もも香」さんの番組（ラジオ・ミュージック制作）などもやっていることを初めて知った。聴いてみたいと思った。もっとPRすればいいのではないかな。

### 【河合委員】

- ・タナベマサキさんの「土曜はひねもす」ラジオは多くの方から、見たり聴いたりしたことがあると話題だ。テレビとラジオを融合させる取り組みは面白く、「今日はテレビ見られないけど、ラジオで楽しもう」とか、その逆もあり、選択肢が広がる。もっとこのようなプログラムがあってもいいのではないかな。
- ・ゲイブさんの番組は、最初の回で緊張感があったのか、もっとアップテンポでもよかったかもしれない。掛け合いの面白さをもっと出したらよかった。異国の文化や習慣が知れて面白い。ゲイブさんがニックネームのように、古井にもニックネームがあれば、もっと親しめると思うのだが。お気に入りの曲などを紹介できるといいのではないかな。
- ・カラスさんのブルース番組は、特殊だが、ごきげんなトークでこだわりの強い番組。もっと聴いてみたいと感じた。ご当地のネタも多くあり面白い。
- ・ギタリストの垣田さんの番組は、不思議な番組。いろいろな曲が混ざり合って紹介され、ミックスベジタブルのようで面白い。ムードがあっていいが、番組の特徴をもっとはっきりさせるといいのではないかな。例えば、オリジナルのBGMでトークするなど、この番組らしさを出すといいかもしれない。

### 【石村委員】

- ・編成について、春先に城端で行われた「つごもり大市」に古井が取材に来ていた。婦人会の皆さんともコミュニケーションをとったりして、FMとなみの活動を知ってもらう機会にもなっていたし、これからもっとこういう機会を増やせばいいと思う。
- ・ゲイブさんの番組について、ゲイブさんはとっても日本語が堪能で分かりやすいが、若干分か

社名	株式会社エフエムとなみ
----	-------------

りにくい表現の部分は古井が言い換えたり、繰り返したりしていたのよかった。もっと日本のいいところを紹介して欲しい。それが地域力の向上につながると思う。

- ・ブルースは聴きなじみのないジャンルだったが、もっと知りたいと思った。50代のおじさんが楽しそうに生き生きと話している様子に、格好よさを感じ、好感を持てた。
- ・垣田さんは、楽曲をたくさん紹介されていて、リラックスして楽しめた。仕事終わりのクールダウンとしてゆったり聴くことができた。

#### 【小幡副委員長】

- ・ゲイブの番組は、すごく貴重。よそ者の視点で地域を見つめることができる。
- ・ブルース番組は、こだわりが感じられていい。マイナーなジャンルだが、気持ちの熱さを感じられるし、多様性の現代において、このようなところにスポットを当てるのも面白い。
- ・垣田さんの番組は、紹介する曲が多彩で切り替えが面白い。音楽の楽しさを伝えてくれる。なんでこの曲を紹介したのか、この曲順にしたのか、説明があるともっと面白いと思う。
- ・編成について、砺波市のコミュニティ放送局なので、砺波にこだわった方がいいと思ったこともあった。だが、砺波市、南砺市、小矢部市を一体とみた「となみ野」という視点でプログラム編成をした方が、生活、防災といった共同生活圏やラジオ局運営のための営業視点から見てもよいと思う。
- ・石村委員もおっしゃられたように、もっと「FM となみ」を知ってもらえるように PR しなければならない。身近な人にもっと出演してもらったりして、たくさんの方を巻き込んで聴く人を増やす仕掛けを。
- ・チューリップフェアの時の特番を美術館でやるのは、やはり臨場感に欠ける。
- ・シンポジウム（経済、文化）を放送し、そこまで行けない人が聴ける番組を放送してはどうか。
- ・多様性の時代なので、番組をしっかり色分けし、リスナーが適切に選択できる編成を目指してほしい。

#### 【河合社長】

- ・となみ野エリアへの意識はしっかりもっている。中継局設置や災害時の生活支援情報提供を確立させる方策を今後も検討していきたい。
- ・現在の難聴エリア解消の対応として、昨年インターネットラジオを開始。五箇山などでも FM となみを聴くことができるようになった。
- ・災害時のコミュニティ放送局の必要性は言うまでもない。第一報は NHK だが、その後の生活支援情報はコミュニティ放送局だ。FM となみを聴いてもらえるような意識付けを市民にしていきたい。そのための方策も検討していきたい。

#### 【小幡副委員長】

- ・インターネットラジオのことを聴いてひらめいたのだが、東京や関西、東海の県人会や砺波会などでも PR（チラシなどの配布）してはどうか。地元の情報を知りたがっている都市在住の方も多いと思う。

社名	株式会社エフエムとなみ
----	-------------

【飯田委員長】

- ・ゲイブさんの番組は、日頃我々が当たり前だと思っていることが外から見ると違うという価値観の違いを教えてくれる。番組への期待感が高まる。
- ・ブルースの番組も垣田さんの番組もそれぞれ取り上げる曲、人物が違い、聴き手が次に期待するものを生み出していると感じる。時には映像よりも強い印象をあたえるかもしれない、ラジオが持つ言葉の力をこれからも活かす番組を創ってほしい。
- ・災害時の放送はもちろんだが、平時でも例えば冬の山の積雪情報や、道路情報など、外から砺波地区に来られる方にとって有益な情報（地元にいると見えない、必要ない情報）を季節によってはエリア外の方への情報提供できるといいのではないか。

【小幡副委員長】

- ・富山県で最も地震のリスクが大きいのは砺波断層。また、水害のリスクも砺波地域は十分にあり。ラジオは災害時の最後の頼りになるべき。自主防災組織との連携も検討し、地域防災体制の構築をすすめてもらいたい。
- ・先にも話がでていたが、平時の意識付けも大切。
- ・有線（TST）との連携も重要。

- 7 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日  
平成27年8月26日付北日本新聞朝刊に記事を掲載した。FMとなみのHP上でも公開。

以上

社名	株式会社エフエムとなみ
----	-------------